

SDGs

姿勢を明確にした。

求められたため「割高でも納得して採用してもらえない」とダメだ（齊藤社長）と痛感する。

それに紙もエネルギーを消費して製造している。水滴から守るためにプラスチック製フィルムをコーティング

大昭和紙工産業（静岡県富士市）の齊藤了介社長は「紙で環境対策室長」を兼務する。名称の通り、環境問題の解決に貢献する紙製品を提案するマーケティング部署であり、経営トップが室長になることで「環境問題解決カンパニー」としての

日本を変える 17 Goals

した紙袋もある。営業長は「どれだけ環境配慮を徹底できるのか」を指摘され、返り討ちと氣を引き締め、自身に遭うこと。斎藤社の手帳に「完全理論武

「CO₂ゼロ」と書き込む。

した証明付の紙袋を製た。素
品化している。採用しとなり
た店舗も環境貢献をP クルで
Rできる。また10月に 環境配
は、同社の9カ所の営 ず、「
業拠点で消費した電力 によつ
によるCO₂排出量を 値を付
ゼロ化した。国 意気込

となり、紙袋をリサイクルできる。紙だから環境配慮を当然と思わす、「環境貢献の追求によって紙袋に付加価値を付ける」(同)と意気込む。

の制度を活用し、宮城県内の
一点突破

家庭から太陽光発電による削減効果を購入して自社の排出分を打ち消し、CO₂ゼロオフィス」を実現する」と信念を持つ。かつてプラスチック製袋斎藤社長は社員に環境配慮の徹底を訴え続けている。「会社の本当の強みを作るには一矢突破しかない。環境対策が必ず強みにならなければ、何をやっても意味がない」と語る。

上紙製品であつても環境配慮を追求する音壁
社長(同社受付)下水滴保護フィルムをはが
してリサイクルできる紙袋「脱皮袋」を開発

い経験があり、環境配慮を“絶対的な強み”にする。

紙製品、環境貢献を徹底

完全理論武装

80

